

第 169 回技術士包装物流会関西支部研究会議事録

令和 5 年 10 月 17 日
関西支部長 真野仁孝
作 成 平田達也

開催日時：令和 5 年 10 月 16 日（月）18:00～19:30
開催場所：ZOOM による リモート方式開催
出席者：29 名(会場参加 13 名、リモート参加 16 名)

開催の挨拶

真野支部長より、関西支部研究会会員の為に今年から隔年で開催される本部・関西支部の交流会についての説明が行われた。

講演会

演題：物流が抱える問題と解決の方向性

講師：青木規明様

生産ロジスティクス研究所代表、技術士包装物流会会長

冒頭に、青木様より講演内容全体の説明があり、その後、本題に入る。

1. 生産ロジスティクス研究所のあゆみ

大学卒業後に新卒で入社された山九株式会社についての会社紹介、入社してからの業務経歴についてご説明頂いた。順調なサラリーマン生活を送る中、コンサルタントとして独立しようと考えて技術士を取得された事や、独立後は会社員時代に築き上げたネットワークにより、様々な経験ができた事をお話頂いた。

2. 物流 2024 年問題ってなに？

最近の国内貨物輸送量は減少傾向にあるが、ECビジネスの増加により宅配貨物が増加し、少量多品種輸送の需要が増えて輸送効率が悪くなっている、又、高齢化が進み、過酷な労働環境により労働人口の減少が続く状態となっている。

このままでは業界全体が継続困難となる危機に迫られているが、2024年4月から自動車運転手の労働時間に関する改善基準が定められる事になっており、これが物流2024年問題と言われている。

これまで通りの顧客要求レベルを満たす物流サービスが提供困難となる事や、運転手の離職が更に加速するのではないかという不安が囁かれるが、物流に関係する人達が認識を新たにして業界全体を改善するチャンスと考え、関係者が共同で取り組まねば解決しない課題である。

3. 物流問題の本質と解決策

物流問題は実際に運送する事業者に対し、荷主や元受け事業者の無理な条件での依頼や、取引契約にない作業を求めてくるような古い商慣行から発生しているもので、持続可能な物流を目指すためには業界全体での「働き方改革推進」により、働き甲斐のある職場造りを行う必要がある。

その為には更なる輸送の効率化、生産性の向上に取り組む必要があり、最新技術の事例としてトラック隊列走行、中継輸送、高速道路無人走行、モーダルシフト、サードパーティ・ロジスティクス、再配達削減策、物流センターの自動仕分け機等をご紹介頂いた。

4. 物流エンジニア（技術士）の役割

物流業界の発展に貢献できる技術者（技術士）として、その役割や身に着けておくべき知識やスキルについてご説明頂き、今後、物流業界において更なる効率化を進めるには物流のトータルエンジニアリングができる「物流技術者」が必要で、現在は物流専門の技術士は少ないものの、今後の日本経済を支える為にも技術士の育成が急務であると述べられた。

5. 質疑応答

残り時間が少なく、3 件の質疑応答となった。

Q：弊社は製造業だが、取引先に値上げの話を持っていくと他の会社に切り替えると言われ、値上げを呑んで

もらえず困っている。何かいい方法はないでしょうか？

A：実際に仕事欲しさで無理な要求を呑む会社はあるでしょうが、かなり厳しい状況と思われ、いつまでも続くものとは考えられません。コスト以外にトータルでメリットがでるような提案が必要だと思います。

Q：送料値上げ等の要望を受け入れない荷主に対し、国や地方自治体が社名公表や罰則金等のペナルティを課すような動きはありますか？

A：民主主義で自由競争の国ですから、なかなか法律で規制するのは厳しいかと思います。ただし、今回の基準改正によって荷主を含めた関係者全員で業務改善しなければならなくなりましたので、良くなることを期待します。

Q：2024年の労働時間に関する改善基準や最低賃金等を守らない企業に罰則を与えるような仕組みを是非技術士包装物流会から国に投げ掛けてほしい。

A：こちらも法律での規制は厳しいかと思われませんが、技術士としてはルール違反をしなくても良いような改善を行っていききたい。

◆第170回関西支部研究会は12月16日（土）に、会場（KITENA 新大阪）及びリモートのハイブリッド形式にて開催する予定。

講師：セツカートン(株) 木野元朝幸 氏<支部研究会員>

演題：「多様なニーズに合わせた最適な段ボール提案の取組み～心までをも包むセツカートンのパッケージ～」

以上